米沢興譲館同窓会会報

第27号
発行／平成10年8月8日
米沢興譲館同窓会
会報　編集委員会
当会報の題字は、第19号から奥山徹石氏（昭和28年卒）の揮毫によるものです。

三〇〇年前の学生は何を想って いただろう

自分の進むべき道を探り求める学生
目的があって、その道を邁進する学生
流れに、ただ何となく委ねている学生
学校に来て、理由もなく反抗している学生
学問すること自体、楽しんでいる学生
友を求め、仲間を求める学生
自分の可能性を見い出したい学生
兎も角、立身出世する為に学ぶ学生
人々の役に立つことを願い学ぶ学生

藩学三〇〇年の記念すべき年にあたりふと思ったのです。その頃の学生は「興譲館」の講堂で講義を受けながら、何を想っていたのだろう。崇高な精神で学んでいたのか、或いは、所詮人間、今の私達と違わないのか？三〇〇年前の学生の心情に思いを馳せてはいかが？

九月二十一日の総会・懇親会へのご参加心よりお待ちしております。

平成十年度同窓会・懇親会
実行委員長　斎藤栄助
（昭和三十八年卒）

表紙写真
藩学創設三百年記念の最大事業、記念館（講堂）完成予想図。平成十二年を完成目標としている。

栄ある歴史三百年

同窓会長　川野　希

松野前会長をはじめとして、長い間の懸案であった大事業がいよいよ川野会長のもとに現実をみようとしている。今年も何かと多忙な会長に日ごろの想いを記していただいた。

いよいよ藩学創設三百年記念式典を挙げる年がやって参りました。

常日頃会員の皆様には、母校および同窓会のために絶大なご支援を賜っておりますが、昨年来、とりわけこの記念事業のために一段とご無理をお願いしております。ここに深く感謝申し上げるとともに、今後とも一層のご協力のほどお願い申し上げます。

さて、例年九月十九日の創立記念日に、記念式典並びに同窓会総会・懇親会を開催しておりましたが、今年はあいにく当日は置賜地区の高校総体が行われ、生徒・職員共に大勢欠けることになります。このため、特別本年に限り九月二十一日に、創立記念と藩学創設三百年記念の式典および同窓会総会・懇親会を実施することになりました。引き続き、別にご案内のような記念行事が二十三日まで催されます。事情ご賢察のうえでご了解ください。

去る七月二十日には、夏の甲子園予選を兼ねた高校野球の県大会の二回戦が行われ、母校は久しぶりに全校応援のもと、多くのOBの方にもおいでいただき、打棒大いに奮い、鶴岡南に大勝しました。勝利の校歌が上杉スタジアムに響き渡り、記念の年にふさわしく、「栄えある歴史三百年、連綿尽きぬ興譲の…」と文字通り凱歌をあげ、喜びに浸りながら、先輩・後輩が一つになって興譲館の絆を確かめることができました。

一方、記念事業にかかわる同窓生の募金も、代表の方々を中心に、各学年着々と目標達成に向かっております。現今のかつてない不況の中、皆様方の母校に対する熱い思いを実感しているところです。ただ、昭和五十年代以降の若いOB諸氏の動きがまだまだ鈍いことが残念です。ぜひその若い力を結集して、後半の追い込みを期待します。そして、来年にはなんとか目標を達成して、平成十二年の記念講堂落成を実現しましょう。

そのほか、各支部の動きも活発となり、年々総会出席者が多くなっていることは喜ばしいことです。また、各学年ごとの集いもそれぞれなされておりますが、やはり活発な学年ほど同級生の消息もよく行き届き、募金の方も順調に行っているようです。皆様の積極的な参加をお願い致します。

本年の総会・懇親会が盛会であることを念じながら、改めて各位のご協力に感謝申し上げ、挨拶といたします。

米沢興譲館同窓会

平成十年度総会・大懇親会ご案内

一、日時　平成十年九月二十一日(月曜日)
二、会場　グランドホクヨウ　(市内金池二丁目)
三、日程　①総　会　午後四時三十分から
　　②懇親会　開場　午後六時から

※対高校教職員との親善野球試合　午後一時から

平成十年度米沢興譲館同窓会長　川野　希
平成十年度同窓会・懇親会実行委員長　斎藤　栄助　(昭38年卒)

米沢興譲館高等学校

記念式典・記念講演ご案内

一、日時　平成十年九月二十一日(月曜日)
二、会場　米沢興譲館高等学校　体育館
三、日程　①記念式典　午前九時から
　　②記念講演　午前十時四十分から

高橋　礼次郎　氏　(昭38年卒)
東北大学工学部助教授

藩学創設三百年は躍進の好機

校長　巻久

ご縁がありまして、十五年ぶりにまた本校に勤務することになりました。前回は、昭和五〇年から五九年までの九年間お世話になりました。十年一昔と申しますが、久しぶりに戻ってみて、歳月の流れを改めて感じているところです。

四月一日、赴任しての第一印象は、デラックスな校舎と広大な校地が、歴史と伝統を誇る興譲館に誠にふさわしいということでした。

例えば、旧校舎にあった松やアンズの古木、あるいは庭石などが再び新天地で年輪を刻み続け、校舎に新たな装いをもたらしております。また、樹木の間から垣間見られるセミナーハウスの眺望は格別で、南に吾妻山を仰ぎ、西に斜平山を望む新校舎の姿には威風堂々の趣があります。

一方、勉学に目を転じれば、放課後には恵まれた多目的教室で遅くまで勉強している姿が毎日のように見受けられます。先頃は広大なグラウンドで生徒・教職員ともどもクラスマッチで汗を流したところです。

新校舎を建設する際、地権者からスムーズに同意を得たのは同窓生の力量に負うところが大きいとのお話を川野会長さんからお聞きしているところです。

新築移転にご尽力をいただいた多くの方々に改めて感謝申し上げる次第です。

本年度は藩学創設三百年の記念すべき年を迎え、同窓会の皆様方には格段のお力添えを賜っているところです。現在、記念事業の一つとして進められている記念講堂建設の実施計画が間もなくできあがり、十一年度早々に着工し、十二年度中に完成の運びになると伺っております。

この計画によりますと、正面向かって左側の空き地に、次の四つの機能を有する本格的な講堂が建設されることになります。

①式典や行事などの場としての機能

②芸術・文化の場としての機能

③地域の方々に開放する場としての機能

④同窓会の拠点としての機能

これら四つの機能はどれをとっても魅力的なものばかりで、単に学校のためだけではなく、「地域に開かれた学校づくり」にも大きく役立つものと期待しているところです。同窓会実行委員会の方々には幾度となく検討を重ねていただき、恐縮に存じております。

教職員一同、完成を心待ちしているところです。

学校としましても、この記念すべき藩学創設三百年を躍進の好機として位置付け、新たな取り組みをしております。

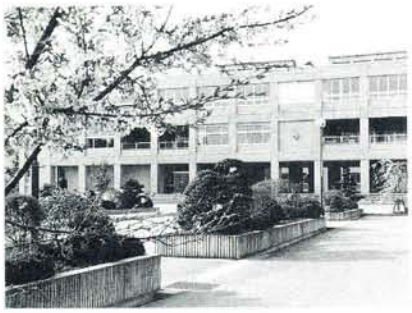
その一つは、感性を育む観点から、正面玄関階段を五〇のフラワーポットで飾り、朝夕には〝花の回廊〟を登下校できるようにしております。花に美しさや優しさを感じ取り、勉学で疲れた心が少しでも安らげばと願っております。

二つには、体験的・貢献的な活動を重視する観点から、枕木で六枠の花壇を校舎の南側に造成したほか、「思索の森」の除草にも取り組んでおります。

三つ目は、自治会の代表三名が平洲祭（東海市）に参加したことです。市長さんから熱烈な歓迎を受けるとともに、訪問の様子が地元の中日新聞にも大きく報道されました。研修を積んだ三名を中心に、自治会活動が更に活発化するものと期待しております。

四つ目は、学校全体が一体となって燃えるべく、四年ぶりに野球の全校応援を実施しました。二回戦は鶴岡南との対戦でしたが、19対3の大差で勝ち、上杉スタジアムに歓声がこだましました。多感な高校時代に熱き思いを経験することは、その後の人生にきっとプラスになると確信しております。

このように、身近なところから改革に着手しておりますが、二一世紀を担う有為な人材の育成に思いを馳せるとき、やるべき課題が尽きません。同窓会の皆様方には今後とも力強いご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



藩学創設三百年記念事業ニュース

目標達成に同窓生の一層のご協力を

第三回実行委員会で募金活動の補強を提案

六月二十四日第三回実行委員会が開催され、いよいよ九月二十一日から二十三日まで展開される記念行事のプログラム、また昨年十月以来関係者の温かいご協力をいただいている記念事業募金活動方針が審議され、興譲館にふさわしい記念事業成功にむけて、取り組む諸計画が承認されました。

川野実行委員会会長は冒頭の挨拶で「本事業成功の要は事業財政四億円の確保だ。厳しい今日の状況下では、計画の見直しも覚悟しなければならないが、まず同窓会が一丸となって目標寄付一億五千万を完全確保することだ。この突破の実績を早期に実現して篤志寄付などを推進しよう」と特段の協力を要請した。

黒田資金部長から募金活動補強方針が提案され、早急に各学年代表者との会議を開催して活動の協力をお願いすることとなった。

また高野事務局長から、「募金は、講堂建設のスケジュールから来年九月末まで募金の集約と達成を実現しなければならない。寄付金の免税手続きをもう一年更新して取り組みたい」と提案し、一層の募金活動推進が承認された。

なせばなる
なさねば成らぬ何事も
成らぬは人のなさぬなりけり
（若き日の鷹山公・黒沢悟郎氏画）

❖目標達成の取組み

ア．第2次募金集約日、平成十年八月末日まで、同窓生寄付金の五十%および篤志寄付金六十%まで達成する取り組みを行う。

イ．学年募金の推進を図るため早急に各学年代表者、募金担当者会議を開催し、協力要請を行う。その結果、各学年共目標達成に努力することを確認した。

ウ．募金額の達成を図るため、平成十年十月一日から平成十一年九月末日まで募金期間の延長による国税の非課税申請を行う。

❖寄付金集約状況

昨年十月から開始しました記念事業寄付金は、各学年毎にとりまとめて現金を届けていただく方法と、各同窓生から学校宛郵便振替・銀行口座などで送金される二種類と、相田事務局次長の手による篤志寄付のとりまとめによって進められています。現在の申込状況は下表の通りです。

「協力団体寄付金」は、百周年記念事業積立金、教育振興会、同窓会等の積立金の寄付によるものです。

同窓生学年別寄付金申込状況

寄付金申込金額	学年数	付記
集約なし	11	
1万円～49万円	23	
50万円～99万円	3	
100万円～149万円	7	
150万円～199万円	3	S20年後期、S23・24年、S34年
200万円～249万円	3	S19年、S28年、S38年
250万円～299万円	3	S27年、S29年、S31年
300万円～	2	S37年、S42年
計	55	
	※昭和8年卒～昭和63年卒まで55学年	

寄付金集約状況（H10.7.24 現在）

寄付金種別	目標額	寄付金申込額	達成率
同窓生寄付金	千円 150,000	千円 41,525	% 27.7
篤志寄付金	75,000	41,130	54.8
協力団体寄付金	168,000	144,990	86.3
教職員寄付金	5,000	5,570	111.4
その他	2,000	0	0
合計	400,000	233,205	58.3

藩学創設300年記念行事プログラム

1．「興譲館300年の歩み」パネル展
　9月18日(金)～23日(水) 米沢市民ギャラリー（ポポロ）

2．記念行事
①記念式典・創立記念式典
　9月21日(月) 9:00～10:30 記念式典　本校体育館
　　10:40～12:00 記念講演　〃
　　東北大学工学部助教授 高橋礼二郎氏
　　14:00～16:30 青柳陽子コンサート
　　市民文化会館
　　16:30～　同窓会総会 グランドホクヨウ
　　18:00～　同窓会大懇親会　〃
　9月22日(火)マラソン大会　本校グラウンド
　　学校～大平コース折返し、生徒・OB参加
　　8:45～14:00 開会式～閉会式（交流会）
　9月23日(水)
　　9:30～11:00 記念講演 市民文化会館
　　脚本家 ジェームス・三木氏
　　11:00～14:00 ポポロ前広場で生徒の催物
　　14:00～16:30 芸術鑑賞 市民文化会館
　　山形交響楽団と松倉とし子コンサート

◎各記念行事への同窓生のみなさんの出席を歓迎しています。
詳しくは学校までお問い合わせ下さい。

平洲記念館（東海市）を訪ねる

毎年五月二十九日に開催される東海市の平洲祭に、藩学三〇〇年記念事業実行委員会から、柿崎教諭と生徒会副会長の加藤賢士君ら三名を派遣し、〝平洲の里〟の人々との熱い交流を行った。

平洲先生生誕の地として、郷土の誇りとして「細井平洲記念館」を設立している東海市は、今回の本校代表の訪問を大歓迎し、市長自ら応接し、藩学創設三百年記念事業成功への激励をいただいた。

訪問した一行は、市民あげての平洲祭の意気ごみを見聞し、藩学創設三百年記念行事に、生徒も積極的に参画し成功の推進を図りたいと決意を述べている。

（写真―平洲記念館に「学則」の掛軸を贈る）

記念館（講堂）の建設計画

本会報表紙に紹介してありますのが、記念館（講堂）の外観図です。第二号のニュースでご紹介した平面図が基本になっていますが、講堂（客席千席、多目的ステージ）に加え、興譲館史料室約百二十㎡、および同窓会室八二㎡が設備され、全体で約千五百㎡程度の建物になります。

八月末日まで実施設計がまとめられ、来年の春から建設着工の計画で進められ、平成十二年七月には完成するスケジュールです。

「記念館」にふさわしい講堂になるよう鋭意設計計画を進めていますのでご期待下さい。

記念誌『興譲館の人脈』を刊行

実行委員会記念誌部会が進めてきました記念誌は、松野良寅前同窓会長が中心になって執筆が進められ、七月に脱稿し、いよいよ刊行の日を迎えています。

A5版三五〇頁で写真も豊富に入った興譲館ならではの人物史がまとめられております。

一部三千円の頒布価格で同窓会員希望者にお分けすることになります。お申込みは事務局（母校）にお願いします。ご期待下さい。

＝母校だより＝

この度は菅弘教諭(昭34卒)と、平洲記念館を訪れた二年生の竹中綾美さん(前頁写真右から二人目)に所感を寄せていただいた。

講堂建設によせて

菅　弘

今回藩学創設三百年記念館として講堂を建設して頂くことになり、母校興譲館に奉職する一員として、同窓会諸氏及び保護者の皆様に深く感謝を申し上げます。

考えてみれば古より、どのような教育機関を持ち、どのような教育施設をもっているかは、その時代を計るバロメーターの役割を果たしてきたといえると思う。日本に仏教が伝来した飛鳥・奈良時代、仏教寺院の金堂・講堂・塔・回廊・門からなる大迦藍の建立のなかにその時代に生きた人々の願いを読み取ることができるし、江戸時代の藩校に武士の精神を読み取ることもできる。西洋の学校の起源が教会の付属教育施設から始まり、産業革命後に普及した普通教育の中で、学校の正面に大時計を設置したのも時間で動く人間を育成するというその時代の教育への要請があったからである。

そのように考えれば、新制興譲館にどのような願いをこめ、どのようなキャンパスを建設するかは、現代に生きる私たちの夢を後代に残す営みと言える。

残念ながら現在の公教育行政の中に、後代に夢を託して学校を建立しているとは考えにくい。教育をマス的にとらえ、均一な設置基準に合わせて学校建設をしているのが現状であるからである。質的差異は普通高校と職業高校の区分があるだけで、それぞれの学校がもつ男女の比とか地域社会における使命などの差は殆ど配慮されてはいない。興譲館も女子の占める割合が年々高くなってきているが、女子の部活動を全面的に認知するほどの運動設備のスペースはない。また学校教育の中で部活動が果たす役割は重要であると誰もが考えていると思うが、部活動はあくまでも学校教育課程を超えたものであって、認知されてはいない。だから部活動の「部室」は学校設置基準にはない。

このような教育条件の中にあって、興譲館に連綿として受け継がれてきている伝統「文武両道」の道を追求しようとすると、どうしても同窓生・保護者の好意に期待することになる。

講堂は先輩の歩んだ道をたどる殿堂であり、文化活動推進の場であり、今の生徒に最も必要と思われる心の暗やみにきずかせる静寂と瞑想の場でありたいと願っている。

願わくば、かつてイギリスで「ジェントルマン・シップはラグビー校のグラウンドで培われた」といわれたように、「私の精神の原点は興譲館の講堂にある」と言わしめるような教育活動の場でありたいと願っている。

平洲の里を訪れて

竹中　綾美

「興譲館」とは、「譲り合う生き方を興す学館」という意味である。米沢藩の名君である上杉鷹山公の師となり、興譲館創立へ力を注いだ細井平洲は興譲の名の通りの人物だったと思う。誕生地である愛知県東海市の方々は、いつも彼を誇りとして、また、師として生活しているように感じられた。

私は、平洲ゆかりの地として、観音寺、西方寺、平洲記念館などを見学した。記念館には、平洲の手紙、書物、また、鷹山公関係のものも展示してあった。平洲祭では、神社や寺で行われる式典に参加した。市内のあちこちに置かれている平洲像からも、東海市の方々が平洲をどれほど慕っているかがうかがわれた。

私はこの東海市で、様々な名所を見学し、たくさんの方々とお話することができた。それは、平洲を名前でしか知らず、平洲の郷土とは何なのかさえも知らずにいた私を大きく変えることになった。

第一に、挑戦する勇気を持つこと。平洲は鷹山公に、何にでも実践してみることを教えたという。鷹山公はそれを受けて、武士が畑を耕すという他では考えられない事を考え、実行し、財政を立て直していった。何事にも積極的に、そして努力していけば、何でも成功するのではなかろうか。「成せば成る」のである。

第二に、米沢をもっと誇りに思うこと。東海市の方々は、自分の町をよく知り、とても愛していた。とても大切にしていた。私はそれを見て、郷土を愛する事がどれだけ人の心を豊かにして生きていけるのかが分かるような気がした。もっと米沢を理解したい、そして愛したい。

藩校三百周年を迎える今、私達は、さらに「興譲」の意味を深く心にとめて勉強や部活などに励み、将来へ向かっていかなくてはならないと思う。平洲のような興譲の心の人物こそが、これからの世界に最も必要な人物ではないだろうか。

平成9年度　同窓会予算書

(平成9年9月1日から平成10年8月31日まで)

収入　(単位：円)

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減(△)	備考
繰越金	59,228	240,922	△ 181,694	
入会金	1,673,000	1,673,000	0	239名×7,000円
年会費	2,250,000	2,350,000	△ 100,000	昭23年～昭62年まで 50,000円×39学年 昭22年～昭13年まで 30,000円×10学年
前年会費未納金	50,000	500,000	0	平成7・8年度会費未納金
雑収入	772	1,078	△ 306	預金利子
計	4,483,000	4,765,000	△ 282,000	

支出　(単位：円)

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減(△)	備考
(運営費)	(1,420,000)	(1,550,000)	(△ 130,000)	
会議費	120,000	120,000	0	役員会等
通信連絡費	100,000	100,000	0	郵便切手
需要費	200,000	200,000	0	慶弔・転退職者餞別・消耗品
人件費	1,000,000	1,130,000	△ 130,000	学校人件費会計へ
(事業費)	(2,520,000)	(2,580,000)	(△ 60,000)	
一般事業費	1,900,000	1,600,000	300,000	各支部総会 会報送料
卒業記念費	250,000	270,000	△ 20,000	記念品代
表彰費	30,000	50,000	△ 20,000	永年勤続表彰
会報費	340,000	300,000	40,000	印刷代
特別会計繰越	0	360,000	△ 360,000	
(予備費)	(543,000)	(635,000)	(△ 92,000)	
予備費	543,000	635,000	△ 92,000	会費余剰分返済のため
計	4,483,000	4,765,000	△ 282,000	

平成8年度　同窓会決算書

(平成8年9月1日から平成9年8月31日まで)

収入　(単位：円)

項目	予算額	決算額	増減(△)	備考
繰越金	240,922	240,922	0	前年度繰越金
入会金	1,673,000	1,666,000	△ 7,000	7,000円×238名
年会費	2,350,000	1,573,840	△ 776,160	会費 1,591,000円 (△払込手数料 17,160円)
前年会費未納金	500,000	223,000	△ 277,000	
雑収入	1,078	201,849	200,771	預金利子・YCCより事務経費として
計	4,765,000	3,905,611	△ 859,389	

支出　(単位：円)

項目	予算額	決算額	増減(△)	備考
(運営費)	(1,550,000)	(1,265,472)	(△ 284,528)	
会議費	120,000	26,947	△ 93,053	各種会議補助
通信連絡費	100,000	47,800	△ 52,200	通信費
需要費	200,000	60,725	△ 139,275	香典・事務用品
人件費	1,130,000	1,130,000	0	人件費会計へ
(事業費)	(2,580,000)	(2,404,911)	(△ 175,089)	
一般事業費	1,600,000	1,523,741	△ 76,259	各支部総会お祝い・旅費、会報送料
卒業記念費	270,000	246,170	△ 23,830	印鑑ケース入
表彰費	50,000	20,000	△ 30,000	永年勤続表彰
会報費	300,000	315,000	15,000	会報印刷26号
特別会計繰入	360,000	300,000	△ 60,000	藩学創設300年準備金に繰入300,000円 同窓会名簿作成基金 0
(予備費)	(635,000)	(176,000)	(△ 459,000)	
予備費	635,000	176,000	△ 459,000	会費余剰返納の為
計	4,765,000	3,846,383	△ 918,617	

決算額

収入済額 3,905,611円 － 支出済額 3,846,383円

＝次年度繰越 59,228円

特別会計		前年度末残	預金利子	本年度積立金	計
藩学創設三百年準備金	収入	2,707,667	14,897	300,000	3,022,564
	支出	藩学300年記念事業会計へ			3,022,564

参考　年会費前納内訳表　(単位：千円)														
年度	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	計
金額	636	393	274	159	82	68	34	21	12	7	6	3	3	1,698

監査の結果上記のとおり相違ないことを認めます。

平成9年9月9日

同窓会監事　橋本桂吉 ㊞

加藤敏夫 ㊞

金　啓一郎 ㊞

米沢興譲館同窓会支部役員

◎米沢支部　連絡先　〒992-1443　米沢市大字笹野1101
米沢興譲館高等学校　☎0238(38)4741
支部長　高橋忠蔵
副支部長　相田英一・大友恒則
監事　奥山　徹・安達治雄
幹事長　小関　薫
事務局長　遠藤岩根

◎東京支部
支部長　小森力雄
副支部長　磯貝昌弘・後藤主計
幹事長　月生田健
副幹事長　梅津誠二郎・吉田仁志
板垣昭次・五雲寺卓・川井陽一
連絡先　〒111-0024　東京都台東区今戸1-15-3
磯貝合金㈱　☎03(3875)8211
FAX03(3875)8213

◎関西支部
支部長　斎藤秀吉
副支部長　山本三郎・大石　彰・川合雄介
幹事長　大槻正重
事務局　連絡先　勝見哲朗
〒537-0011　大阪市東成区東今里2-15-30
サン美術印刷㈱　☎06(976)0231

◎宮城支部　連絡先　中條　仁
〒983-0862　仙台市宮城野区二十人町6
☎022(291)5372
支部長　瀬川　耕
副支部長　中條　仁・白石善次郎・芳賀滋弥
幹事　岩田清隆・相田音吉・林　一郎・小林令児・香坂昌紀・大武清夫・猪俣良市・御供政敏・森下和夫・熊坂　仁・山水　忍・鈴木利美・和田美知子・矢尾板範子

◎山形支部
支部長　高野健男　〒990-2401　山形市平清水75-9
☎023(622)1657
副支部長　高橋淳一・堤　孝雄・斉藤　真
幹事長　二瓶　功
副幹事長　船山光文・安部　敏
監事　安藤隆夫・岩沼　甫
事務局　〒990-0041　山形市緑町1-2-40
☎023(642)2538

◎山形県庁教育委員会職員同窓会
会長　長尾良彦　〒990-0864　山形市大字陣場3-12-52
☎023(684)7348
副会長　小関克二
幹事長　近野久左衛門
幹事　鈴木和也・小野庄士・小関敏彦・相澤栄司
佐藤大顕・山本由義・下條邦彦・島貫克彦
高橋基之

◎置賜地区県職員同窓会
連絡先　〒992-0012　米沢市金池東南置賜合同庁舎
☎0238(24)2311
支部長　佐藤　旡　〒992-0055　米沢市御廟2-7-13
☎0238(23)2851

◎高畠支部
支部長　登坂捷一
〒992-0351　東置賜郡高畠町高畠2152-23
☎0238(52)0017
副支部長　梅津伊兵衛・星　寛治
幹事長　鈴木征治
事務局長　連絡先　金田成康　高畠町役場内
☎0238(52)1111

◎赤湯支部
支部長　須藤清次　〒999-2211　南陽市赤湯3005
☎0238(43)6111
副支部長　伊藤幸太・外山善夫
事務局長　連絡先　高橋順一
〒999-2231　南陽市二色根76-1

◎宮内支部　連絡先　〒992-0472　南陽市宮内3010-10
吉田文雄　☎0238(47)2706
支部長　佐藤　稔
副支部長　川合悌次郎・星　清一
幹事長　吉田文雄
監事　高橋正夫

◎川西支部　連絡先　〒992-0121　東置賜郡川西町上小松
川西町役場　猪狩文昭　☎0238(42)2111
支部長　遠藤忠志
〒992-0213　東置賜郡川西町尾長島1211
☎0238(42)4121
副支部長　鈴木　弘
監事　船山昭司・嶋津憲英
幹事長　猪狩文昭
事務局長　島貫啓一・後藤哲雄・大友勝治

◎長井西置賜支部　連絡先　〒993-0011　長井市館町北6-16
市民会館前　渡部秀一司法書士事務所
☎0238(84)2368　FAX0238(84)2373
支部長　外田　陽　〒993-0084　長井市栄町11-17
☎0238(84)2004
副支部長　井上俊雄・芳賀康雄
代表幹事　今井慎吾
事務局長　渡部秀一

◎小国支部
連絡先　〒999-1363　西置賜郡小国町小坂町1-16
渡部建設事務所　渡部君夫　☎0238(62)2412
支部長　高井朋次
〒992-1203　西置賜郡小国町市野々389
☎0238(65)2006
副支部長　安部　正・木村信夫
幹事長　渡部君夫

◇興譲館同窓会校内役員
理事　小野隆夫(教頭)・島貫祐輔・小林伸也
本間　精・樋口　隆
幹事　石黒宏治・小野寺孝二・佐藤美枝子
会誌編集委員　岸　順一・山根秀樹・高野　譲・平山茂夫・小関　薫・木村琢美・相田治孝・遠藤岩根